

令和4年8月大雨の災害を教訓に！

# 梯川水系緊急治水対策プロジェクトを策定

問い合わせ 道路河川課 ☎24・8089

昨年8月の大雨災害において、梯川では観測史上最高水位を記録し、津上川などの支流の氾濫などにより市内で大きな被害が発生しました。

今回の経験を踏まえ、今後の大雨による被害を最小限にし、安全・安心な暮らしを確保するための緊急的な取り組みとして「梯川水系緊急治水対策プロジェクト」が策定されました。

## 流域治水の施策イメージ



このプロジェクトは河川区域・集水域・氾濫域を一つの流域として捉える流域治水の考えに基づき、国や県、市などが一体となって3つの対策に取り組むものです。このうち、市が進めるハードやソフト対策を紹介します。



河川のハード事業については同時配布の「広報かけはしがわ」をご覧ください。金沢河川国道事務所ホームページでも紹介しています。



対策① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らす

雨水排水路の整備と排水ポンプ場の増強をします。

8月4日、市街地において1時間に最大58・0mmの降水量があり、市内の広範囲で内水浸水被害が発生しました。

市街地での浸水の被害を軽減するため、洪水を一時的に貯める石橋川遊水地や雨水排水路の整備をはじめ、九竜橋川排水機場の排水ポンプを増設し、排水能力を約1・5倍に増強します。

また、老朽化した排水施設も適切な時期に更新し、排水機能を安定的に確保していきます。



▲ポンプの増設を行う九竜橋川排水機場。排水能力を向上し市街地での浸水被害の軽減を図ります。

対策② 被害対象を減少させる

立地適正化計画(防災指針)を策定します。

暮らしの利便性向上を目的に、コンパクトなまちづくりを進めるため策定された、立地適正化計画。今後この計画を見直し、国や県が作成する「水害リスクマップ」を活用して、浸水被害の頻度が高い区域が新たな居住地とならないよう、防災指針の策定に取り組みます。

計画の見直しにより、気候変動で頻発・激甚化する自然災害に対応し、誰もが暮らし続けられる生涯安心なまちを目指します。

## 立地適正化計画



災害リスクの提示	床上浸水の頻度が高いなど災害リスクの高い地域を提示
居住や都市機能の誘導	災害リスクの低い地域へ居住や都市機能を誘導
危険性への対策	居住などを誘導すべき区域などの災害リスクを低減させる整備などを重点的に推進

対策③ 被害の軽減、早期復旧・復興

地域防災計画の改定を行います。

8月大雨災害時の教訓を生かして、避難情報の発令基準や避難所開設の在り方などの地域防災計画を改定します。

また、皆さんの避難や安全行動に結びつく情報を迅速かつ確実に発信するため、防災アプリの開発も進めています。

## アプリを活用して情報伝達の確実性を向上



警戒レベルに合わせた背景色で視覚的に危険度を伝えます。更にプッシュ通知で情報をお知らせ。緊急情報はサイレン通知で確実に伝えます。そのほか、避難などの緊急情報をいつでもどこでも見ること、聞くことができます。

5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保！
4	避難指示	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等以外も自主的に避難を
2	注意報	自らの避難方法の確認
1	早期注意情報	災害への心構えを高める

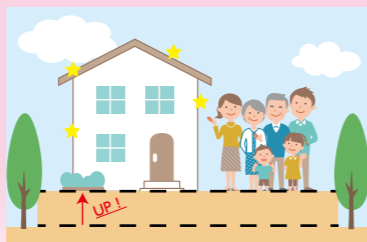
ご存知ですか？

## 浸水被害軽減のための助成制度

市民一人ひとりの取り組みで大雨の浸水被害を軽減させる、市民・事業者向けの助成制度があります。

### ◆宅地のかさ上げに対する補助

対象区域 小松市洪水ハザードマップ上で浸水深が0・5m以上の浸水想定区域  
補助額 施工業者が市内の場合、対象経費の2分の1(上限50万円)。市外の場合、対象経費の3分の1(上限33万円)  
申請方法 申請書に必要な事項を記入の上、持参  
問い合わせ 建築住宅課 ☎24・8106



### ◆雨水貯留槽・雨水浸透ますの設置助成

対象 住宅、店舗、事業所、集会所などに設置する個人または事業者  
助成額 整備費の3分の2(上限 雨水貯留槽…3万円、雨水浸透ます…6万円、浄化槽転用雨水貯留槽…10万円)  
申請方法 申請書に必要な事項を記入の上、必要書類を添付し持参  
問い合わせ 上下水道管理課 ☎24・8093

